

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 047	提案機関名 湘南漁業協同組合
要望問題名 チョウセンハマグリ種苗生産技術開発と更なる増殖に係る調査・指導について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <p>当漁協では、藤沢支所において平成14年度からチョウセンハマグリの増殖に取り組んでおり、近年は他の支所でも放流試験を試みるなど、地域全体でチョウセンハマグリの資源造成に取り組んで参りました。中でも、鎌倉支所においては令和元年から特別採捕許可に基づき鋤簾や貝桁によるハマグリの分布調査を実施し、新たな漁獲対象種としての手応えを掴み、令和5年の漁業権切り替えに際し共同漁業の内容とし、更なる増殖と資源管理に取り組んでおります。</p> <p>一方で、相模湾全体を見ると、藤沢支所や鎌倉支所の成功を参考として種苗放流に取り組む漁協が増え、令和7年度の相模湾全体の種苗放流量は合計3トンを超える水準にまで達しています。相模湾の現状として、あるいはそれぞれの放流地域として、餌料環境を考慮しないで行われている現在の種苗放流を続けることは、種苗の成長不良に繋がるのではないかと危惧も生じています。</p> <p>つきましては、ハマグリの生産水準を維持するために必要な餌料環境について一定の指針を示していただくとともに、ハマグリの適正放流量についてもご教示いただきたい。</p> <p>併せて、現在水産技術センターにおいて取り組んでいただいている相模湾産ハマグリ種苗の生産技術開発について、なお一層のご尽力をいただき、早期の試験放流を目指していただくようお願いします。</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>餌料環境については、他県の生息密度等の知見を収集し、適正な種苗放流量について、指導してまいります。また、チョウセンハマグリの漁獲における混入率および回収率を推定し、適切な放流量と資源管理手法を検討してまいります。</p> <p>県では、令和9年度を目標年度として、ハマグリ類の親貝養成及び種苗生産の基礎技術開発について、令和5年度より研究を進めております。現在(令和7年10月)、昨年度に、採卵した稚貝を継続飼育し、稚貝の成長性や給餌方法等の飼育方法について検討しております。浮遊幼生の着底時に著しく減耗するため、初期の生残率を改善なども併せて検討しており、今後も引き続き、チョウセンハマグリの種苗生産技術の開発を進めて参ります。</p>		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			